

当社代表取締役社長 登坂正一による、太陽誘電グループ従業員向けの「2021年 年頭挨拶」の内容を以下の通りお知らせいたします。

人間の持つクリエイティブな力で感動を与える会社に

2020年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響があらゆる分野におよんだ1年でした。太陽誘電グループは、あらかじめ疫病の大流行を想定したBCP計画を策定しており、グループ全体で感染防止対策を講じています。今後、with コロナ・after コロナ時代のニューノーマルが定着し、社会はどんどん変わっていきます。VUCA※の時代を生き抜くためにも、しなやかさをもって困難を乗り越える力が求められると強く感じた1年でした。

太陽誘電グループが手がける電子部品は、5GやIoT、ADASやEVの普及に伴い、今後も需要が拡大していきます。材料から開発する強みをより一層活かし、小型・大容量・高性能な商品展開を強化していくことが必要です。生産性改善活動「smart.Eプロジェクト」の進化で、見える化やAIの活用をさらに進め生産ロスを減らすことができれば、世界中どこでも同じ品質の商品が作れるロケーションフリーを実現できます。変化にスピーディーに対応できる生産体制を構築するためにも、「smart.Eプロジェクト」を継続して推進していきます。

太陽誘電グループは、「モノづくり」の極限を追求していくと同時に、社会にソリューションを提供する「コトづくり」による新事業創出にも力を入れています。グローバル社会の課題解決にいかに関与していくか、人や社会が必要としているものは何か、それを実現するにはどういう技術を組み合わせるのかを考え、人と社会に徹底的に寄り添った提案を生み出す力が必要です。

AI技術は日々進化しており、プロセスの管理や改善、データの整理や分析などの分野では十分に力を発揮できますが、新しいものをクリエイティブするのはまだまだ難しく、0から1を生むのは人間のセンス、セレンディピティが必要です。人間にしかできないクリエイティブの力を磨くとともに、AIを使いこなせるリテラシーを養い、それぞれの長所を把握して使い分けていくことがますます重要になります。

太陽誘電グループの経営ビジョンは、「お客様から信頼され、感動を与えるエクセレントカンパニーへ」です。社会の想像を超えた提案でお客様をワクワクさせ、おもしろいと思わせる世界を創り、「モノづくり」、「コトづくり」で新たな価値を創出し持続的な発展を実現するためにも、グループ一丸となり、力を合わせて頑張っていきたいと思います。

※VUCA: Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という4つの頭文字をとった言葉